

受賞理由

日本動物行動学会 学会賞 区分(1) 動物の行動に関する新たな現象の発見

松村 健太郎 氏

「コクヌストモドキの移動活性に対する人為選抜が繁殖形質に及ぼす影響を調べた研究」

松村氏の研究は、コクヌストモドキという実験動物としてよく使われる種を用いて、動物の移動行動に関する活動性の遺伝的な基礎を明らかにしたものである。コクヌストモドキに人為選抜をかけて移動性の異なる系統を作成することで、移動活性のコストの存在を示し、移動能力と繁殖能力のトレードオフを検出することに成功している。遺伝学的手法を駆使することで、動物の形質におけるトレードオフを検出したエレガントな研究と言える。移動習性が遺伝形質に強く依存する生物がどれほど広範にみられるのかは未知の領域であり、本研究成果の拡大解釈にはある程度の慎重さが必要であるが、移動活性と繁殖形質のトレードオフ関係への着眼点は独創的であり、多くの動物が移動することを鑑みると、本研究は他の動物を対象とした同様の行動研究の先駆けとしても高く評価できる。今後、遺伝子レベルの違いが解明されれば、行動の至近要因からのアプローチとして重要な成果となると期待される。このように松村氏の研究は、動物の移動行動に関する新視点を提起するものであり、日本動物行動学会 学会賞にふさわしい研究成果と言える。

日本動物行動学会 日高賞

中田 兼介 氏

中田氏は、クモを主な研究対象として独創的な研究を展開するまさに脂の乗っている研究者でありながら、社会啓蒙活動にも積極的に取り組みメディアにおいての存在感を高めている稀有な存在である。一般市民向けの多くの啓蒙書籍を執筆し、また数多くの一般向け公演を行うとともに、新聞やラジオなどのメディアに出演して解説することによって動物行動学の普及など社会との橋渡しに大きく貢献している。中田氏の動物行動学の魅力と正しい知識を社会に発信する活動は、今後さらに大きな教育啓蒙上の社会貢献を果たし、日本動物行動学会のプレゼンスの向上を導くことが十分に期待できるものである。また、中田氏が *Journal of Ethology* 誌の編集委員長として、掲載論文のプロモーションビデオ発信など新しい切り口で動物行動学の普及啓発を進め、国際的な学術貢献を果たしてきた点も高く評価されるべきである。これらの一連の業績・活動から、中田氏が動物行動学の普及に果たしてきた役割は大きいと評価し、日本動物行動学会 日高賞を受賞するにふさわしいと判断した。